

脳卒中サバイバーのセルフマネジメント尺度の開発

関連するSDGsの国際目標

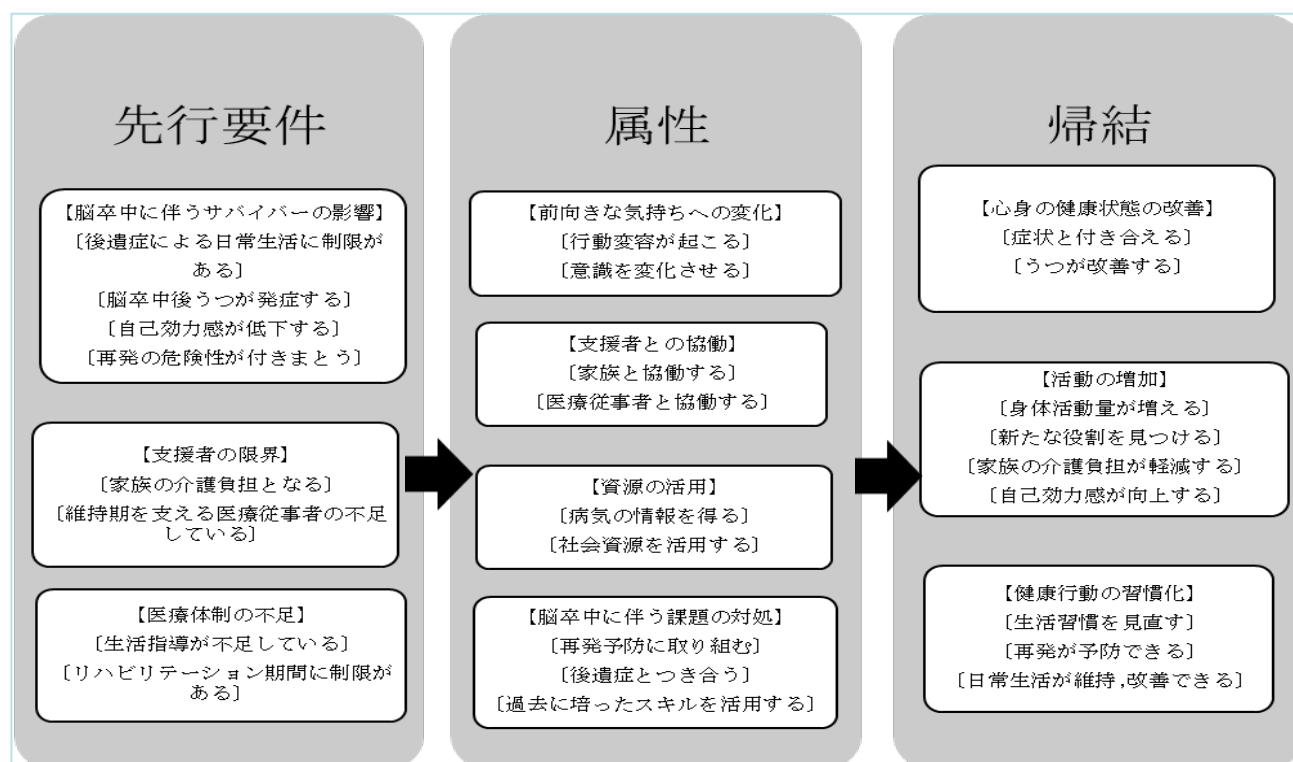


人間看護学部 人間看護学科 講師 片山 将宏
研究分野 : 成人看護学 脳卒中看護 外来看護

脳卒中は、わが国では死亡原因の第4位を占めます。また、介護が必要となる最大の原因でもあります。脳卒中サバイバーとは、①高血圧症、糖尿病などの生活習慣病をもっており、脳卒中再発の危険が一生付きまとう、②運動麻痺や失語などの後遺症があり、日常生活に支障をきたす、③支援する医療従事者がほとんどいない、という特徴をもちます。脳卒中サバイバーは、このような特徴から、これまでに大切にしてきた生活や人生を縮小させながら生きていかなければならない状況に追い詰められます。そこで、脳卒中サバイバーが健康でその人らしく生きること、well-beingを目指すことがセルフマネジメントの目標と考えます。現在、「脳卒中サバイバーのセルフマネジメント尺度の開発」に取り組んでいます。

■脳卒中サバイバーのセルフマネジメントの概念分析

脳卒中サバイバーは、他の慢性疾患とは違うセルフマネジメントの特徴をもちます。そこで、概念分析を行った結果、脳卒中サバイバーのセルフマネジメントを「脳卒中サバイバーが前向きな気持ちに変化できるように支援者と協働しながら資源を活用し、脳卒中に伴う課題に対処すること」と定義しました。この概念図を基にセルフマネジメント尺度の開発を行っています。



脳卒中サバイバーのセルフマネジメントの概念図